

07年5月度の総括

進学塾ビッグバン

ダニールよ。目を覚ませ。けだるい夢の名残りのてのひらを胸におき……。
はじめての光がおまへを性急に包んだとき、小さなくさめがおまへを主張したやうに。
うすあかりの中から、おまへの世界が、しだいに形をとらへていったやうに。
……

ダニールよ目を覚ませ。
数々の記憶の夜から、おまへの試練の昼の光へ。

—— 「ダニールのための朝の歌」 鷺巣繁男 < 「夜の果への旅」 所収 > ——

鷺巣繁男は、わが国では珍しいギリシャ正教徒の詩人です。洗礼名をダニール・ワシリスキーというので、この詩も自らに向かって発したモノローグのような趣があります。ですから、この詩の意味するところは、洗礼を受けた幼い遠い記憶の晦暗から、少年・青年期である真昼の光の中に躍り出る「試練」への覚悟であって、決して「朝起きが辛い」「昼間の授業を受けるのが試練だ」というビッグバン生の生の声を体現したものではありません。鷺巣繁男は、日中事変と太平洋戦争に長期従軍し、殊勲を立てたことを恥として北海道にて開拓に従事しました。「鷺頭人身の太陽神ラーは、眠らない船を鷺巣繁男のために融通したものと思われる」（加藤郁乎）というほど夜の闇と人間の生を根源的に問う極北の詩をつむぎ続けた孤高の詩人でした。

さて、孤高とまでは行かないまでも、今年一年、受験生たる自らを覚悟した以上、「孤独に徹する」腹はもうすでに出来上がっているでしょうか。逆に高校時代の友人、その多くはすでに大学生になった彼らと、微妙な一線があることをそろそろ体感し始めているのではないのでしょうか。

5月の第一週目は、ゴールデンウイークの真っ最中でした。ビッグバン生にとって、これが最初で最後の長期休暇です。いかが過ごされましたか。毎年危惧するのは、ゴールデンウイークが終わった直後、急速にダレてしまう生徒がいることです。今年は幸いそうした例は直後には皆無でしたが、しばらくしてから、特に第1回マーク模試が行なわれたあとにその例が見られたのは残念なことです。その彼には、「イエローカード」を出しました。つまり、「こんど遅刻したら五分刈り」です。それでも止まない場合は「退塾処分」とすると言明しました。それからは今のところ何とか間に合うよう来ているようです。こんなことは辛いことでも何でもないのです。単に習慣づけの問題です。辛いのは、成績を伸ばさなければならないことです。浪人生に共通して言えるのは、誰もが今年の受験で失敗したという点です。このままではまた落ちるしかないという点です。そのことを肝に銘じて

ください。

5月13日のマーク模試の成績を、即日自己採点をして昨年度の合格者の昨年の同時期の成績と比べるということをしました。結構多くの方が昨年の合格者の平均を上回っていたことは心強いことです。とは言え、昨年は、「奇跡の合格」を果たした人も混じっているので、手放しでは喜ばませんが。ただ今年は、昨年に比べ、7限目授業で英語・数学を演習と反復を旨として展開している分だけ、量的な基礎はできつつあるな、という感じでした。もっとも模試の英語などは、7限目のそれと違い、総合問題のためか、時間配分で失敗した、という声も聞きました。今後は場数を踏むことによって解消させていきたいと思いません。

16日・17日は、来春の「東京パック」に備えての宿泊ホテル、直前講習会場を視察してまいりました。来春は東京会場受験者が今年より増えそうな気配なので、昨年度のような「質問会」中心のパックではなく、「直前講習会」を中心に行なおうと考えています。思うに医療と教育だけは人と人が直接触れ合う最後の職業ではないでしょうか。サテライトやネット授業などで「安・近・短」に、生徒に教育情報を与えて済まそうとする大手予備校が少しずつ信頼をなくしつつあるのも故なことではない、と思う昨今です。やはり情熱を持った生の授業、しかも洗練された少人数授業にまさるものはないのです。ビッグバンは最後の最後まで「密着指導」を貫きたいと決意した次第でした。

20日は「第1回保護者会」でした。久しぶりに保護者の方とお会いする機会でした。多くは開業医をなさっている方たちですが、高収入とは言え、超多忙であり、ものすごいご苦勞をなさっている様子が見て取れました。意外だったのは、決して無理強いして子どもたちを医者にさせようとしていらっしやるのではなく、子どもたちはその自然な進路決定志向として「医」の道を選んだのだ、ということでした。親の背中を見て子どもがついていくことを決意したということですから、まさしく親の本来的な教育の精華ということが言えるでしょう。

保護者会の後、ひとりのお父様から大変うれしいお便りをもらいました。そこには、子どもが迷いながらも、やはり医師になる道貫いていこうとする決意をビッグバンによって固めていただいたことに感謝し、面談担当講師を始めすべての講師がビッグバンの講師であることに限りない^{ほこり}矜持を持っていることに改めて信頼と感銘を受けたことがつづられてありました。私自身も多くの迷いを持ちながらロジスティックス開校7年目にして、ようやくここまで来たか、という感慨を持たせていただきました。当該講師をはじめ、全教職員にはこのお便りを公開し、共有財産として深く心に刻み込ませていただきました。

5月27日の記述模試では生徒の全答案を返送前にコピーし、ビッグバン講師による私的採点を行っていち早く問題点を洗い出しました。個別の質問、指導などに生かしたいと考えます。一月後に再返送される採点結果に一喜一憂するのではなく、受けた直後の生暖かい時点でこそ問題点を洗い出すことの意義を今一度かみしめていただきたいと思います。

さて季節は最もしのぎにくい高温多湿の夏を迎えます。ここでもこれまで通り、決まっ

た時間に決まった学習態勢に入る、という姿勢を貫いてください。夏の終わりにビッグバン生は全単元をいったん終わります。どの予備校、塾よりも先にひととおりの完成を見ます。一回目の壁塗りの完成です。この後 2 回以上、範囲はそのままに、内容をさらに深化させていき、直前講座へとつなげます。小さな反復は、夏期と冬期にプレイバック講座という名の復習定着講座で行います。

この深い眠りの中に地衣は光の悲しみを養ひ、この深い眠りの中に硬玉は光の意志をはぐくむ。

この深い眠りの中に、夏至は流^{るたく}瀆の太陽を運び、この深い眠りの中に、赤道は海^{とドラ}蛇の列を支へる。

———鷺巣繁男「RAPSODIA」———

平成 19 年 6 月 5 日

進学塾ビッグバン 代表 松原好之（文責）